

運転代行／フロント

トコロ

⑥

転車両(青パト)の防犯パト人の指導記録簿を作成。新人・ベテランの区別なく、社員が仕事の中で気付いた懸念について個別に指導する取り組みを始めた。

滋賀県では運転代行の普及が遅く、2002年開業のプロテック・アイは県内8番目の認

定。随伴車1台での開業時は、酒運転防止や業界健全化に取り掛かる。同県野洲市にあるプロテック・アイ社の辻哲也社長(43)だ。全国運転代行協会滋賀県支部長と、運転代行事業者がいる。同県野洲市にあるプロテック・アイ社の辻哲也社長(43)だ。全国運転代行組む。両団体が運行する青色回

青パト運行など警察の信頼

健全化・防犯活動で中心的役割

期が続いたが、今は8台、従業員23人と、県内でも大規模な会社

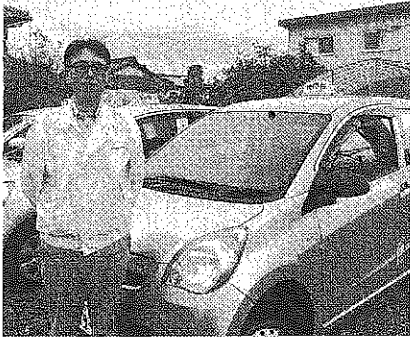
安全確保や顧客利便のため、利益は設備投資に回してきた。増車、メーター搭載、随伴車両の統一などを順次実施し、最近では無線機をIP無線に変更。GPSによる各車の走行データを教育に役立てている。

さらに教育では従業員一人一人の信頼は厚い。

一方、人材の確保・教育、消費税、悪質事業対応などの課題解決には、自社単独でなく業界全体の対応が必要というのが辻社長の持論。「人の生命財産を預かる仕事。もっときちっとやるべきだ。従業員を食わせていく使命もある」と業界への思いを語る。最近、認定を受けない「闇代行」の増加といった問題も起きているそうだ。

青パトはその問題意識の下、地元の守山警察署の許可を受け2年前から始めた。県内9事業者が持ち回りで月に数度運行し、飲酒運転防止や防犯、違法な運転代行業への注意をしている。同協会や同支部の加入数はまだ少なく、参加者を増やすことが最大の課題だが、警察から

地域全体で熱心に取り組む。写真は辻社長



プロテック・アイ(滋賀県野洲市)